

2021年2月5日(金)

老球の細道591号

偉大なコーチ山崎先生の思い出〈PART17〉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

ウインターカップ2017で全国優勝した大阪桐蔭高校のPGだった鈴木妃乃さんがNCAA デビジョンIのノースアラバマ大学の先発ガードになった。日本人女子初のNCAA デビジョンIの選手は鶴鳴女子高校出身の大野慎子さんである。私たちがエバンズビル大学に行った時は、彼女はまだ入学する前だった。当時の地元紙は次のように書いていた。

【コーチ山崎の教え子の1人である大野慎子は英語力をつけるためにエバンズビル大学のESL 研修コースに入学した。今シーズン、彼女はエバンズビル大学でプレイすることになるだろう。エバンズビル大学は、大野慎子がNCAA デビジョンIでプレイする日本人女子選手の第1号になるだろうと信じている。ある日本のテレビ局が、大野慎子がいるので、来年の夏エバンズビル大学の長崎遠征ドキュメント番組を作成することについて情報を求めてきているとヒーリー氏(今回の企画のプロモーター)は言った。「私は大野慎子が環境の変化に慣れるだろうか少し心配でした。特に、身長が低い(160cm)ことで苦勞するのではないかと心配していた。でも、コーチ・ベネットの精神構造と大野のそれはぴったり相性が合うので、その点で成功するのではないかと思っていました」コーチ山崎はそう語った】

山崎先生が言うように、大野慎子さんはその後、1999年9月にエバンズビル大学に正式に入学し、翌年にはカンファレンスリーグで最優秀新人賞を獲得し、カンファレンストーナメントではベスト5に選ばれた。そしてNCAA トーナメントにエバンズビル大学は初出場することになる。もちろん大野さんはスターティング5に名を連ねたのである。

さらに驚くべきことに、山崎先生は教え子の1人である大野さんの生き方に感動して、なんと4冊目の著書となる『大野慎子物語』〈長崎出島文庫〉を書きあげたのである。序文で語っている。

【慎子の生き方は絶対に日本の選手たちに紹介しなければならない。そしてそれは私にしかできない仕事だと思った。その思いがもう一冊本を書く決心をさせた源流である。その源流が砂漠の中に吸い込まれる水無川になってしまうのか、あるいはミシシッピー川のような大河になるのか今はわからない。しかし、慎子が本場アメリカのバスケットボールに挑戦するまでに成長した経緯は、4年の歳月をかけて仕上げた鶴鳴モーションと絶対に切り離すことができないものであり、それはなんとしてでも活字にしておかなければならないのである。なぜなら、慎子は日本全国どこにでもいる普通の選手であったし、当時の鶴鳴チームも日本全国どこにでもある普通のチームだったからだ。〈中略〉。もう一度言う。私がこの本を書くのは、自分の教え子やチーム創りの自慢話をしたいからではない。全国の悩める選手やコーチたちに「がんばれ、人というのは思い込めばきっとそこまでたどりつけるものなんだ」というメッセージを送ってやりたいからである。それ以上の望みは何もない】

学校では教務主任の職にありながら、チームを日本一に導き、そして作家でもないのに著書を何冊も書いてしまう。凄まじいエネルギーはどこから?先生は怪物である。〈続く〉